

授業科目名： 教育科学と社会1c	人間社会科学研究所 博士課程前期教育科学専攻 共通科目	単位数： 2単位	主担当教員名： 草原 和博 担当形態：オムニバス
講義コード（科目区分）	WNA00000（専門的教育科目）	使用言語：日本語	
担当教員名： 曜日・時限：（2T）月9-10，水9-10 草原和博，小山正孝，七木田敦，久井英輔，若松昭彦，森まゆ，内田雅三，出口達也，小野章，田中秀幸，櫻井千穂，藤村正司，村上かおり，徳永崇，上田毅，八木健太郎，佐々木勇，鈴木明子，枝川一也，山田浩之，永田良太，佐藤大志，鈴木裕之，北臺如法，石田洋子，吉富健一，馬場卓也，三好美織，中山亜紀子，西原貴之			
授業の目標・概要等 教育科学における研究が社会にどのような影響を及ぼし，また社会からどのような影響を受けてきたのかについて，自然科学や生命科学を含む他分野との関連も踏まえて解説する。それぞれの分野と日本社会及び国際社会との繋がりを学ぶことにより，教育科学が今後の社会の形成においてどのような役割を期待されているのかの理解につなげる。また，受講生自身の研究テーマが人間社会の発展にどのような関与をし得るのかを考察することにより，研究意欲の向上を目指す。			
<b>第1回：6月17日（草原和博）</b> ガイダンスとして，本講義の全体像を解説する。また概論を行う。 具体的には，①戦後の「政治化」した学校教育が「脱政治化」してきた背景と，②2000年代以降に「再政治化」してきたことに伴う課題を，主権者教育論・シティズンシップ教育論と日本の政治体制の変化の観点から解説する。			
<b>第2回：6月22日（七木田敦）</b> 教育学に関する分野を中心として，日本社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。具体的には，近年学校教育においてニーズが高くなっている特別支援教育について，乳幼児期，児童期，青年期でのそれぞれの発達課題と，それに合わせた具体的な実践場面での事例についてインクルーシブ教育の観点から解説する。			
<b>第3回：6月24日（藤村正司）</b> 教育学に関する分野を中心として，日本社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。具体的には，高等教育の中核をなす大学教育について，高等教育政策，教育経済学，および教育社会学の観点から，誰のための大学か，誰が負担すべきかについて解説する。			
<b>第4回：6月29日（久井英輔）</b> 教育学に関する分野を中心として，日本社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。具体的には，「社会教育」という実践領域，研究領域が，学校教育だけでなく地方自治や福祉などの政策領域と重なり合いながら展開してきた戦前・戦後の歴史を，社会教育実践研究および社会教育行政研究の観点から解説する。			
<b>第5回：7月1日（石田洋子）</b> 教育学に関する分野を中心として，国際社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。具体的には，導入部分でEFA，SDG4など教育開発へ向けての国際社会の取組を紹介する。続いて，米国や日本をはじめ，世界各国におけるSTEM教育及びSTEAM人材育成への教育政策の動向と課題を			

、PISAやTIMSS等国際学力調査結果のエビデンスに基づく政策立案（EBPM）の観点から解説する。

**第6回：7月6日（馬場卓也）**

教育学に関する分野を中心として、国際社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。具体的には、TALIS国際調査およびアジア・アフリカ諸国の事例を取り上げ、教育の質、教師の質、教師教育の観点から解説・議論する。

**第7回：7月8日（若松昭彦）**

日本における学校教育と社会との関わりについて、他の分野との関連を踏まえて解説する。具体的には、①児童生徒の多様性をいかした学級・学校生活の創造と②共生社会の構築との関連を、特別支援教育学の観点から考察する。

**第8回：7月13日（吉富健一，北臺如法）**

日本における学校教育と社会との関わりについて、他の分野との関連を踏まえて解説する。具体的には、自然現象や社会生活に理科・数学がどのように関わっているかを、理科教育学・数学教育学の観点を交えて解説する。

**第9回：7月15日（草原和博，田中秀幸，鈴木裕之）**

日本における学校教育と社会との関わりについて、他の分野との関連を踏まえて解説する。具体的には、（草原）①教科書の構成や記述の変化と②社会構造の変動や国家・政策との関連を、社会科教育学の観点から考察する。（田中・鈴木）技術や情報における発展に対して社会や教育への影響について述べる。

**第10回：7月20日（小野章：R2担当，佐藤大志：R2担当）**

日本における学校教育と社会との関わりについて、他の分野との関連を踏まえて解説する。具体的には、（小野）①教科書の内容や扱い方と②現在求められている学力との関連を、英語科教育学の観点から考察する。（佐藤）①教科書教材が開く問題領域と②現代社会に生きる学習者の問題との関連を、国語教育の観点から考察する。

**第11回：7月27日（上田毅，鈴木明子，出口達也，村上かおり）**

日本における学校教育と社会との関わりについて、他の分野との関連を踏まえて解説する。具体的には、（上田・出口）学校教育においてスポーツ科学が体育科にどのように入ってきたかを発育発達の観点から解説する。（鈴木・村上）学校教育における家庭科と、生涯を通して人間生活の営みを支える家政教育との関わりについて、具体的事例を踏まえて解説する。

**第12回：7月29日（徳永崇，八木健太郎）**

日本における学校教育と社会との関わりについて、他の分野との関連を踏まえて解説する。具体的には、同じ芸術教科である音楽科と美術科の特性について概説し、両教科の関わりや社会との関係について考察する。

**第13回：8月3日（中山亜紀子）**

日本語教育学に関する分野を中心として、社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。具体的には、留学中における言語学習体験を言語学習者のアイデンティティの観点から論じる。

**第14回：8月5日（櫻井千穂）**

日本語教育学に関する分野を中心として、社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。具体的には、国内の文化的言語的に多様な背景をもつ子どもの複数言語の育成とアイデンティティの確立に向けた教育的課題と解決方法について考察する。

**第15回：8月10日（永田良太）**

日本語教育学に関する分野を中心として、社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。具体的には、社会のグローバル化に伴う他言語および他言語母語話者との接触機会の増加によってもたらされる言語変化とコミュニケーション上の課題について解説する。

**第16回：定期試験**

教科書・参考書等

特に指定しない

授業で使用するメディア・機器等

テキスト，配付資料，音声教材，映像（ビデオ/PC/その他画像資料）

履修上の注意・受講条件等

授業への出席回数が全体の3分の2に満たない場合は，期末レポート等の提出資格が得られない。授業に出席の際は必ず学生証を持参すること。

成績評価の基準等

成績は，各回における小テスト

（第2回～第15回，10点×14回＝合計140点を100点満点に換算）で評価する